職業実践専門課程等の基本情報について

| ### 1989 年4月 1日 | 学校名 | | 設置認可: | 年月日 | 校長名 | | | 所在地 | | | | | | | | |
|---|---------------------|---|------------------------------|--------------------|------------------------|----------------------|---------------------------|--------------------------|---|-------------------|--------------------|--|--|--|--|--|
| ### 2015 日本の | 明治東洋医学院専 | 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 | 昭和51年 | 4月1日 | 三澤 圭吾 | (住所) | 564-0034 大阪府吹田市西御加 | | | | | | | | | |
| 中央技術人制造性主要性 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1937 | | | | | | | | 所住地 | | | | | | | | |
| | 学校法人明治東洋 | 羊医学院 | 昭和53年2 | 月10日 | 谷口 和彦 | | | 「保野田ヒノ谷6-1 | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 分野 | | 認定課程名 | | 認定学科名 | | | 高度専門士認定 | □年度 閲 | 業実践専 | 厚門課程認定年度 | | | | | |
| | 医療 | 医 | 療専門課程 | 1 | 第1柔整学科 | 平瓦 | て 7(1995)年度 | - | | 平成2 | 26(2014)年度 | | | | | |
| | 学科の目的 | 学校教育》 考のできる | 去及びあん摩マッサ 有資格者を要請す | ナージ指圧師、 るとともに、国 | はり師、きゅう師に 民の健康保持・増 | :関する法律に基 強に寄与する人 | づき、はり師及びきゅう 材を育成することを目 | 5師に関する知識、技行 的とする。 | 析を教授し、もっ | って現代に | 立脚した合理的思 | | | | | |
| | 可能な資格、中退 | イザー)とし に努めてお | しており、全クラスに 3り、長期欠席者や | こクラスアドバィ 学業不振者の | イザー(専任教員) 早期に発見して対 | を配置している。 †応する学生支援 | クラスアドバイザーは5 体制を構築している。 | 定期的に学生と面談を また、学生相談室には | 行い、学生の第一心理カウンセラ | 実態把握刀 | 及び保護者との連携 | | | | | |
| 全域 | 修業年限 | | 全課程の修了に必 | 必要な総授業 | | | | | | | 実技 | | | | | |
| ### 1880 人 日子 | 3 | | ※単位時間、単位いす | 0.700 |)単位時間 1 | ,980 単位時間 | 0 単位時間 | 810 単位時間 | 単位 | 立時間 | 単位時間 | | | | | |
| 180 人 99 人 0 人 0 人 7 ト 7 ト | · | | | 5 th 16th | | | | 単位 | 単位 | 立 | 単位 | | | | | |
| | | 生徒 美 | 美貝(A) 留字 | | | | | | | | | | | | | |
| # 200 | 180 人 | | | 0 | | 0 % | 7 % | | | | | | | | | |
| 製 | | ■卒業者 | 数(C) 妇 玄 数 (D) | : | | <u>\</u> | | | | | | | | | | |
| # おかえ飲食者(ア) 19 人の 96 別数率(ア) 19 人の 96 別数率(ア) 19 96 関数率(ア) 19 96 関数率(ア) 19 96 関数率(ア) 19 96 関数率(ア) 19 96 日本者でもの助性もの前令(ア) 94 96 単立方式のようの財性の前令(ア) 94 96 単立方式のようの財性の前令(ア) 1 日中点の行後) 1 日本の対策の対策の対策の対策の対策の対策の対策の対策の対策の対策の対策の対策の対策の | | | | : | | | | | | | | | | | | |
| 製造機能 (E/D) 100 96 ■ 交換 1 このもの | | ■地元就 | 職者数(F) | | 19 | 人 | | | | | | | | | | |
| 日本 本部に占める故職者の対合 (E/O 94 96 18 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ■就職者 | に占める地元就職 | 者の割合(F/I | | 0/4 | | | | | | | | | | |
| 単連手音数 94 96 1 | | ■卒業者 | こ占める就職者の第 | 割合 (E/C) | υI | 70 | | | | | | | | | | |
| ■ 本の他 | | | | (2/ 5/ | | % | | | | | | | | | | |
| 記憶を希望しなかった名2名 (今年 の中央空業者に関すら令和7年5月1日時点の/信仰) ■主なな観光、業界等 (予知年後年業社) 技術院、銭免費情候等 第三者による 字板評価 第三者による 字板評価 第三者による 字板評価 第一般社団法人来道整使教育 音楽年月 令和5年度 非正元へ一プリ北 https://www.meji~s.ac.jp/about/public/ が、一般社団法人来道整使教育 音楽年月 令和5年度 非正元へ一プリ北 https://www.meji~s.ac.jp/about/public/ が、一般社団法人来道整使教育 音楽年月 令和5年度 非正元へ一プリ北 https://www.meji~s.ac.jp/about/public/ が、一般社団法人来道整使教育 音楽年月 令和5年度 非正元へ一プリ北 https://www.meji~s.ac.jp/about/public/ が、一般社団法人来道整体教育 28年月 中枢 https://www.meji~s.ac.jp/about/public/ が、一般社団法人を発展した実験・実質・実践の授業時教 2.779 単位時間 うち企業等と連携した実験・実質・実践の授業時教 199 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実質・実践の授業時教 90 単位時間 (うち企業等と連携した必修の実験・実質・実践の授業時教 90 単位時間 (うち企業等と連携した必修の実験・実質・実践の授業時教 90 単位時間 (うち企業等と連携したがの実験・実質・実践の授業時教 90 単位時間 (うち企業等と連携した海回の授業時教 単位 うち企業等と連携した海回の授業時教 単位 うち企業をと連携したの修の業団の授業時教 単位 うち企業をと連携したの修の業団の授業時教 単位 (うち企業等と連携したの修の業団の授業時教 単位 (うち企業等と連携したの修の業団の授業時教 単位 (うち企業等と連携したの作の業を・実質・実技の授業時教 単位 (うち企業等と連携したがあって、回接等 (での出版する場所は実現と) 3 人 (での出版する場所は実現と) 2 人 第8年校の専門経程を修了した後、学校等においての課題を集集(条所は実現号) 2 人 またいでのよりを発展する場合 (事修学校設置基準第4条所は実現号) 2 人 またいでのよりを表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を | 就職等の状況 | | | | 2 | 人 | | | | | | | | | | |
| (令和 6 年度本業者に関する今和7年5月1日時点の情報) ■ 古な政観光、業界等 (特別の表で業生) 接触院、鍼灸数音段等 | 170100 47 47 1V())0 | ■その他 | | | | | | | | | | | | | | |
| (令和 6 年度本業者に関する今和7年5月1日時点の情報) ■ 古な政観光、業界等 (特別の表で業生) 接触院、鍼灸数音段等 | | 就職を希 | 望しなかった者? | 名 | | | | | | | | | | | | |
| ■ また設理外、実界等 「会称を教を全意」 接着解決・解灸整骨液等 第三素による 学校評価 第三素による 学校評価 第三素による 学校評価 第三素による 学校評価 第三素による 学校部価 第一条 (| | 370198 € 117. | 200% MEG = | _ | | | | | | | | | | | | |
| 会和6年度平東生 会称 | | (令和 | 6 年度卒 | 業者に関する令 | 和7年5月1日時 | 点の情報) | | | | | | | | | | |
| 会和6年度平東生 会称 | | ■主な就 | 職先、業界等 | | | | | | | | | | | | | |
| 接音形に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| # 三者による 学校評価 **** *** *** *** *** *** *** *** *** | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による 学校辞価 デ価値等と、例えば以下について任意に数 デ価値等と、例えば以下について任意に数 デ価値等と、例えば以下について任意に数 デ価値等と、例えば以下について任意に数 が一点ページ以下は、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| # 学校評価 評価所体: 一般社団法人条道整復教育 2番4月: 令和5年度 評価标本を作業した (本人へ一ンジネル https://www.meiji-s.ac.jp/about/public/pb | | | | | | | 有 | | | | | | | | | |
| 当該学科の | | ※有の場合 | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科の | 学校評価 | | 評価団体: 一般社 | t団法人柔道 はな | 整復教育 _{受審年} | 月: 令和5年度 | F P | | https://www | .meiii-s.a | c.ip/about/public/ | | | | | |
| ルースページ URL (A:単位時間による算定) (A:単位時間による算定) (A:単位時間による第定) (A:単位時間による第定) (A:単位時間による第定) (A:単位時間に うち企業等と連携した実験・実置・実技の授業時数 180 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 190 単位時間 うち企業等と連携した必修の演題の授業時数 90 単位時間 うち企業等と連携した必修の演題の授業時数 90 単位時間 「うち企業等と連携した必修の演題の授業時数 90 単位時間 「うち企業等と連携した必修の演題の授業時数 単位 「うち企業等と連携した演習の授業時数 単位 「うち企業等と連携した演習の授業時数 単位 「うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 単位 「うち企業等と連携した必修の実際・実置・実技の授業時数 単位 「うち企業等と連携した必修の実際・実置・実技の授業時数 単位 「うち企業等と連携した必修の実際・実置・実技の授業時数 単位 「うち企業等と連携した必修の実際・実置・実技の授業時数 単位 「うち企業等と連携した必修の業をの実践・実置・実技の授業時数 単位 「うち企業等と連携した必修の業をの実践・実置・実技の授業時数 単位 「・ちを実験・連携したが、学校等においてその担当する教育には事した者であって、当該等 「博修学校設置基準第41条第1項第1号) 1 人 「等修学校設置基準第41条第1項第1号) 2 人 「等修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人 日 修士の学位又は専門職学位 (等修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 | | | 評価税 | 战構 | ~ш т | | Th. | ニームページURL | | | - 5 -7 | | | | | |
| 日内に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (A:単位時間による算定) 起授業時数 | | www.meiji | −s.ac.jp | | | | | | | | | | | | | |
| 総授業時数 2.790 単位時間 75 企業等と連携した実験・実置・実技の授業時数 180 単位時間 75 企業等と連携した接触の授業時数 2.790 単位時間 75 企業等と連携した液質の授業時数 180 単位時間 75 企業等と連携した必修の実施・実置・実技の授業時数 180 単位時間 75 企業等と連携した必修の演習の授業時故 90 単位時間 75 企業等と連携したインターンシップの授業時数 90 単位時間 75 企業等と連携したインターンシップの授業時数 単位 75 企業等と連携した実験・実置・実技の授業時数 単位 75 企業等と連携した実験・実置・実技の授業時数 単位 75 企業等と連携した実験・実置・実技の授業時数 単位 75 企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 75 企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 75 企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 75 企業等と連携したインターンシップの授業時数 単位 75 企業等と連携したインターンシップの授業時数 単位 75 企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 75 企業等と連携したインターンシップの授業時数 単位 75 企業等と連携したと参加業部 2 単位 10 集保学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程を修工した後、学校等においてもの担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程を修工した後、学校等においてもの担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程を修工した者であって、当該専門課程を修工した者であって、当該専門課程を修工した者であって、「第6年学校設置基準第41条第1項第1号) 2 人 6 修士の学位を有する表等 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 1 計 9 人 | UKL | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 方企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 180 単位時間 3 方企業等と連携した演習の授業時数 90 単位時間 3 方企業等と連携した必修の演習の授業時数 2.790 単位時間 3 方企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 3 方企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 3 方企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 (3 方企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 2 所 | | (A:単位 | 正時間による算定) | | | | | | | | | | | | | |
| うち企業等と連携した演習の授業時数 90 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 2,790 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 10 単位 10 全業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 10 ち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 10 ち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位 10 ち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 10 ち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 10 ち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 10 年代 | | | 総授業時数 | | | | | | 2,790 単化 | 位時間 | | | | | | |
| うち必修授業時数 2,790 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 180 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 90 単位 90 | | | うち企 | 業等と連携した | 上実験・実習・実持 | 支の授業時数 | | | 180 単化 | 位時間 | | | | | | |
| うち必修授業時数 2,790 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数 180 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 90 単位 90 | | | うち企 | 業等と連携1.7 | - 演習の授業時数 | | | | 90 ma | 位時間 | | | | | | |
| うち企業等と連携したとないの実施が況 | | | | | 2.灰目の反木可奴 | | | | | | | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 90 単位時間 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 90 単位時間 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 90 単位時間 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 90 単位 (の | | | フラ姫 | | | | | | | | | | | | | |
| 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) B:単位数による算定 総元・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・ | | | | うち企業等 | 等と連携した必修(| の実験・実習・実 | | | 180 単位 | 位時間 | | | | | | |
| 正常等の実施状況 (A、Bいずれかに記入) 総授業時数 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した流習の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数) 単位 (うち企業等と連携したがのが表別で表別で表別で表別で表別で表別で表別で表別で表別で表別で表別で表別で表別で表 | | | | うち企業等 | 穿と連携した必修 <i>0</i> | の演習の授業時数 | t | | 90 単位 | 位時間 | | | | | | |
| (A、Bいずれかに記入) 日 : 単位数による算定 | 企業等と連携しま | 1 | (うち | 企業等と連携し | したインターンシャ | ップの授業時数) | | | 90 単位 | 位時間 | | | | | | |
| (日:単位数による算定) 総授業時数 単位 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携したが、学校等においてその担当する教育等に従事した規間とを通算 してスキリレてスキリレンでもの担当する教育等に従事した規間とを通算 してスキリレンでもの担当する教育等に従事した規間とを通算 してスキリンでもの担当する教育等に従事した規間とを通算 してスキリンでもの担当する教育等に従事した規間とを通算 してスキリンでもの担当を書きまでは、学校設置基準第41条第1項第5号) 3 人 ・ (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 4 人 ・ (事修学校設置基準第41条第1項第5号) 9 人 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| おして まして まし | (A、Bいずれか | | ***ニトス等ウ\ | | | | | | | | | | | | | |
| うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 単位 うち企業等と連携した液圏の授業時数 単位 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 | に記入) | 、口:単位 | | | | | | | 4 | / <u>+</u> | | | | | | |
| 学生の学位を有する音等 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| すら必修授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単 | | 1 | うち企 | 業等と連携した | こ実験・実習・実持 | 支の授業時数 | | | 単作 | 位 | | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位 当位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 うち企業等と連携したインターンシップの授業時数 単位 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数 単位 単位 | | 1 | うち企 | 業等と連携した | た演習の授業時数 | | | | 単 | 位 | | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 | | 1 | うち必 | 修授業時数 | | | | | 単 | 位 | | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 単位 単位 | | | | うち企業等 | 穿と連携した必修 <i>は</i> | の実験・実習・事 | 要技の授業時数 | | 当 | 位 | | | | | | |
| (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した相関とを通算 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 3 人 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年級と訪素務に従事した期間とを通算 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人 ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 4 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人 計 9 人 | | 1 | (5.1 | | | | | | | | | | | | | |
| てその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等 ③ 高等学校教諭等経験者 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 5 その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 9 人 | | | (75) | 止未守と理携 | しにインダーンン: | ノノの技未可致) | | | 単位 | ıπ | | | | | | |
| てその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等 ③ 高等学校教諭等経験者 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 5 その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 9 人 | | - | | | | | | | | | | | | | | |
| てその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 ② 学士の学位を有する者等 ③ 高等学校教諭等経験者 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 5 その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 9 人 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教員の属性 (専任教員について記入) ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 4人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0人 計 9人 | | | てその担当する教 門課程の修業年限 | 育等に従事した と当該業務に | た者であって、当 | 该専 _{/ 声 体学} | 校設置基準第41条第1項 | [第1号] | 3 人 | | | | | | | |
| 教員の属性 (専任教員について記入) ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 4人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0人 計 9人 | | | ② 学士の学位を | 有する者等 | | (専修学 | 校設置基準第41条第1項 | [第2号) | 2 1 | $\overline{}$ | | | | | | |
| 教員について記しる。 | 数号の屋供 / 声に | | | | | | | | | - | | | | | | |
| (4) 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 4 人 (5) その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0 人 計 9 人 「上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度 | | 1 | | | | | | | | \longrightarrow | | | | | | |
| 計 9人 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度 | | 1 | ④ 修士の学位又 | は専門職学位 | | (専修学 | 校設置基準第41条第1項 | (第4号) | 4 人 | | | | | | | |
| 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度 | | 1 | ⑤ その他 | | | (専修学 | 校設置基準第41条第1項 | (第5号) | 0 人 | | | | | | | |
| 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度 | | 1 | ‡ † | | | | | | Q 1 | | | | | | | |
| 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 | | | н | | | | | | • | | | | | | | |
| 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| の実務の能力を有する者を想定)の数 | | | 上記①~⑤のうち | 、実務家教員 | (分野におけるお | おむね5年以上の | 実務の経験を有し、か | いつ、高度 | 0 1 | | | | | | | |
| | | | の実務の能力を有 | する者を想定) | の数 | | | | 9 人 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

柔整医療を実践する職業人の養成において、実践的かつ専門的な能力を育成するに必要な教育課程を編成するために 下記の基本方針に基づいて企業等と連携する。

- ①現代の社会で求められている、また、今後、ニーズが高まると予想される柔整領域での実践的技能の習得を目的とする。
- ②講師派遣施術所と教育内容の調整を行い、講師が提供できる知識・技術・技能の内容に即した授業科目を設定し、実習を中心とする授業形態により実践的な技能の習得を図る。
- ③教育内容、効果が目的に合致しているか、多様な評価を行い、教育の改善に努めることにより、教育水準の向上を図る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

社会で活躍する実践的職業人、教育課程の責任者、学校教育の現場責任者で構成されていることから、現状あるいは今後必要となる教育に関する提案を実践的職業人からいただき、学校教育の責任者等が具体的な教育計画案を作成し、本委員会の議を経て、新教育計画として管理運営会議(決議機関)に提案する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

| 名 前 | 所 属 | 任期 | 種別 |
|-------|--------------------|----------------------------|----|
| 中田 人之 | 公益社団法人大阪府柔道整復師会 理事 | 令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) | 1 |
| 中本 浩二 | 大阪府柔道整復柔道連盟 会長 | 令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) | 1 |
| 川端 崇司 | かわばた整骨院 | 令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) | 3 |
| 三澤 圭吾 | 明治東洋医学院専門学校 校長 | 令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) | _ |
| 斎藤 雅高 | 明治東洋医学院専門学校 柔整学科長 | 令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) | _ |
| 檀上 博 | 明治東洋医学院専門学校 教務部長 | 令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) | _ |
| 秋津 知宏 | 明治東洋医学院専門学校 教務部次長 | 令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年) | _ |

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月頃、3月頃)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月11日 14:30~15:30 第2回 令和7年3月12日 14:30~15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

臨床現場においては、コミュニケーションカに長けている柔道整復師は成功する可能性が高いことから、コミュニケーションカを向上させるような講義を実施した方がよい旨の意見があった。また、臨床現場で求められる知識・技術について、講義の中で自費診療の内容を教育すること、昨今は骨折患者が来ない接骨院が多い中、明らかに取り扱わない骨折については、授業内容の取捨選択をすべきである旨の意見があった。

なお、新カリキュラムではオンデマンド授業を実施することから、フォローアップ体制を強化する必要がある旨の意見があり、委員会の意見を新カリキュラム検討に反映させることとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界の第一線で活躍する講師陣を招聘し、日々変化する社会状況や業界の情報等の最先端の情報を収集し、柔道整復師として施術を行ううえで必要な上肢、下肢、体幹の骨折、脱臼、軟部組織損傷についての知識・技能を習得することを目的とし、業界のニーズに対応できる治療法を身に付けることを方針としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

治療の現場で実践・活躍している講師の下、現場で役立つ社会のニーズに応じた知識・技術が習得できる授業を行っている。具体的な連携内容は以下のとおりである。

- ①講師が提供できる知識・技術・技能の内容は、当該授業科目の専門性を向上させるのに必要な内容であり、かつ卒業後の実践 的、専門的能力の育成に 必要な内容とする。
- ②実習については、安全性を確保し、確実に技能が習得できる教育方法を決定する。
- ③技能の習得ができたか、教育内容が妥当であったか、学生は満足したかなどを、学生、教育者、第三者により評価する。
- ④評価結果を教育課程編成委員会で検討し、教育の改善を行うことにより、教育の水準の向上を図る。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載

| | 科目数については代表的な5科目について記載。 | |
|-----------|---|---|
| 科 目 名 | 科 目 概 要 | 連携企業等 |
| 臨床実習 I | アーリーエクスポージャーとして、卒業後に就職先となり うる病院、介護福祉施設等で見学実習を実施し、治療家に なるための意識付けを行う。 | ふくろく整形外科クリニック おおたきクリニック 筋トレデイサービスくろーばー 筋トレデイサービスすまい えがおデイサービス 連携企業総数:9企業 |
| 臨床実習Ⅱ | | にぶ整骨院 かわばた整骨院 北川整骨院 宮川接骨院 むらつ鍼灸接骨院 連携企業総数:15企業 |
| 臨床柔道整復実技Ⅱ | スポーツにおける競技復帰や積極的なスポーツ競技におけるリハビリテーションを習得し実践できることを目的とし、柔道整復施術所の現場で実践・活躍している講師の指導のもと、学校で実習を行う。 | 宮川接骨院 |
| 臨床柔道整復学Ⅴ | 接骨院を開業することを考え、接骨院の施術内容を紹介し、施術に必要な知識を身につけることを目的とし、柔道整復施術所の現場で実践・活躍している講師の指導のもと、講義・演習を行う。 | かわばた整骨院 |
| 臨床柔道整復実技Ⅳ | 接骨院の開業を考え、接骨院の施術内容に必要な知識と技術を身につけることを目的とし、柔道整復施術所の現場で実践・活躍している講師の指導のもと、学校で実習を行う。 | かわばた整骨院 |

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校が定めるファカルティ・ディベロップメント委員会規程に基づき、教員が教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動を推進することを目的として、以下の基本方針に沿って計画し、参加を推進している。

- ①加盟している公益社団法人東洋療法学校協会の教員研修会(毎年度8月を予定)に参加する。
- ②企業等の外部講師を招き、学校内において研修する。
- ③企業等での研修を希望する教員に対し、募集を行い、曜日(原則週1回)を定め研修する。
- 4個人が加盟する学会等の研修会に参加する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第33回日本柔道整復接骨医学会学術大会 連携企業等:日本柔道整復接骨医学会

対象: 教員

期間: 令和6年11月30日、12月1日

内容 柔道整復師~多様性の次代にどう生きるか~

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 公益社団法人全国柔道整復学校協会 第66回 教員研修会 連携企業等: 公益社団法人全国柔道整復学校協会

期間: 令和6年9月21日、22日 対象: 教員

内容 柔道整復の新時代へ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第34回日本柔道整復接骨医学会学術大会 連携企業等:日本柔道整復接骨医学会

期間: 令和7年12月6日、12月7日 対象: 教員

内容 エンジョイ学会!エンジョイ柔道整復接骨医学!~オール柔道整復師の学会をめざして~

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 公益社団法人全国柔道整復学校協会 第67回 教員研修会 連携企業等: 公益社団法人全国柔道整復学校協会

期間: 令和7年9月27日、28日 対象: 教員

内容 柔道整復の新時代へ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校の教育理念・目的・育成人材像の達成に向けて実施している教育課程、教育内容等を主として学校関係者評価委員会委員の外部委員に説明し、理解のうえ評価を受けることにより、教育の水準の向上と質の保証を図る。また、その結果に基づき、学校教育等の改善と発展を目指す。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|-----------------------|---|
| (1)教育理念•目標 | 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。 |
| (2)学校運営 | 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。 |
| (3)教育活動 | 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか。 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。キャリア教育、実 践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発 などが実施されているか。 |
| (4)学修成果 | 資格取得率の向上が図られているか。退学率の低減が図られているか。 |
| (5)学生支援 | 生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか。保護者と適切に連携しているか。 |
| (6)教育環境 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 |
| (7)学生の受入れ募集 | 学生募集活動は適正に行われているか。 |
| (8)財務 | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 |
| (9)法令等の遵守 | 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか。 |
| (11)国際交流 | |
| ※(10)及び(11)については任意記載。 | |

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価報告書において、委員会から退学率について目標達成できていないことから、学生支援体制を見直して退学率の低減に努めること及び防災に関する危機管理体制の整備を進めるよう提言があったことから、学内で調整して体制整備を進めることとした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

| 名 前 | 所 属 | 任期 | 種別 |
|-------|------------|----------------------------|-----------------------|
| 北川 肇 | | 令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年) | 業界団体 卒業生 |
| 上山 陽 | 帝塚山中学高等学校 | 令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年) | 高等学校 関係者 |
| 村上 雄一 | 関西大学北陽高等学校 | 令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年) | 高等学校 関係者 |
| 酒井 良和 | さかい鍼灸院 | 令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年) | 企業等委員 卒業生 |
| 佐子 幸男 | 佐于鍼灸整骨院 | 令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年) | 企業等委員 卒業生 企業等委員 |
| 竹藤 裕子 | | 令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年) | 卒業生 |
| 田中 精一 | デイハートたなか | 令和7年4月1日~令和9年3 月31日(2年) | 企業等委員 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ · 広報誌等の刊行物 · その他())

URL: https://www.meiji-s.ac.jp/about/public/

公表時期: 令和7年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育課程編成委員会において、ガイドライン項目(1)から(9)に対する内容について、概要を説明して意見を求め、学校 関係者評価委員会との有機的関連性を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| (<u>-)</u> (1) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | |
|---|--------------------------|
| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 学校の教育・人材育成の目標及び教育指導計画、特色 |
| (2)各学科等の教育 | 資格取得合格率の実績 |
| (3)教職員 | 教職員の組織、教員の専門性 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | 就職支援等への取組状況 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | スキルアップセミナー、フォローアップセミナー |
| (6)学生の生活支援 | 学生支援への取組状況 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 学生納付金の分納、延納制度 奨学金制度 |
| (8)学校の財務 | 事業報告書、貸借対照表、収支計算書 |
| (9)学校評価 | 自己点検・自己評価、学校関係者評価の結果 |
| (10)国際連携の状況 | |
| (11)その他 | 厚生施設の案内 |
| | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ · 広報誌等の刊行物 · その他())

URL: https://www.meiji-s.ac.jp/about/public/

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

| | | | 専門課程 第1柔整学科) | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|------|--------------|-------------|---|---------|----|-----|---|----|-------------|---|----|---|---|---------|
| | | 分類 | į | | | | | | 授 | 業プ | | 場 | 所 | 教 | 員 | |
| | | 選択必修 | 選 | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 業時 | 単位数 | 講 | 演習 | 実 習 • | | 校外 | | | 企業等との連携 |
| | | | | | | 777 | 奴 | | | | 実 技 | | | | | 125 |
| 1 | 0 | | | 自然科学 | 私達の身体の基本的な構造調節の仕組みを 総合的に学修する。 | 1 前 | 30 | 2 | 0 | | | 0 | | | 0 | |
| 2 | 0 | | | 健康とスポー ツ | 体力測定の評価法・力測定の評価法・健康 のための脳トレーニングを学修する。 | 1 前 | 30 | 2 | 0 | | | 0 | | | 0 | |
| 3 | 0 | | | 情報処理 | コンピューターの基本を理解し、セキュリティーの知識をつけることなどIT技術の基礎を学修する。 | 1 前 | 30 | 2 | 0 | | | 0 | | | 0 | |
| 4 | 0 | | | 外国語 | 英語を通してコミュニケーションを図ることを目的とする。 | 1 前 | 30 | 2 | 0 | | | 0 | | | 0 | |
| 5 | 0 | | | 健康指導法 | スポーツの意義と価値、体力・トレーニン グ理論、コーチングなど、スポーツ全般に 関する認識を深め学修する。 | 前 | 30 | 2 | 0 | | | 0 | | | 0 | |
| 6 | 0 | | | 食と健康 | 健康を維持・増進するにめの正しい良物摂取のあり方について学び、さらに、運動の効果を最大限に引き出すために必要な食事のあり方やサプリメントについて学修す | ٦ | 30 | 2 | 0 | | | 0 | | | 0 | |
| 7 | 0 | | | 心理学 | 人(患者さん)と接するために必要な心の 問題を学修する。 | 3 前 | 30 | 2 | 0 | | | 0 | | | 0 | |
| 8 | 0 | | | 解剖学 I | 骨の名称、構造を学修する。 | 1 前 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | | 0 | | |
| 9 | 0 | | | 解剖学Ⅱ | 筋の名称、作用を学修する。 | 1 前 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | | 0 | | |
| 10 | 0 | | | 解剖学Ⅲ-1 | 消化・呼吸器の名称、構造を学修する。 | 1 前 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | | | 0 | |
| 11 | 0 | | | 解剖学Ⅲ-2 | 泌尿・生殖器の名称、構造を学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | | | 0 | |
| 12 | 0 | | | 解剖学Ⅳ | 脈管の名称、構造を学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | | | 0 | |

| | | | | | | | | | | | | | _ |
|----|---|--|-----------------|--|--------|----|---|---|--|---|------|---|---|
| 13 | 0 | | 解剖学Ⅴ | 中枢神経の名称、構造、機能を学修する。 | 2 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 14 | 0 | | 解剖学VI | 末梢神経の名称、構造、機能を学修する。 | 2 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 15 | 0 | | 体表解剖学 | ipad(ヒューマンアナトミー)を使用しな がら体表解剖を学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | 0 | | |
| 16 | 0 | | 局所解剖学 | 超音波画像観察装置等を使用しながら体表 解剖を学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | 0 | | |
| 17 | 0 | | 生理学 I − 1 | 人体の正常な機能(血液、骨の生理)について学修する。 | 1 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 18 | 0 | | 生理学 I −2 | 人体の正常な機能(尿の生成と排泄、栄養 と代謝)について学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 19 | 0 | | 生理学Ⅱ-1 | 人体の正常な機能(筋の生理、神経の生理)について学修する。 | 1 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 20 | 0 | | 生理学Ⅱ-2 | 人体の正常な機能(感覚の生理、内分泌) について学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 21 | 0 | | 応用生理学 | 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化について学修する。 | 2 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 22 | 0 | | 運動学 | 人の動きや動作を可能にしている構造とそ のメカニズムについて学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 23 | 0 | | 病理学概論I | 各臓器に生じる病変(病因論、退行性病 変)を学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 24 | 0 | | 病理学概論Ⅱ | 各臓器に生じる病変(進行性病変、腫瘍) を学修する。 | 3 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 25 | 0 | | 衛生学・公衆 衛生学 I | 健康の保持増進と疾病予防、公衆衛生について学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 26 | 0 | | 衛生学・公衆 衛生学Ⅱ | 感染症、消毒などについて学修する。 | 3 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |
| 27 | 0 | | 一般臨床医学 I | 内科領域 (診察概論・各論) の疾患について学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | |

| | | | | | | | | | | | |
|----|---|---------------------------|---|--------|----|---|---|---|---|------|---|
| 28 | 0 | 一般臨床医学 Ⅱ | 内科領域(症候概論)の疾患について学修 する。 | 3 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 |
| 29 | 0 | 運動傷害学概 論 | 整形外科領域の疾患を学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 |
| 30 | 0 | 高齢者傷害学 概論 | 高齢者に多くみられる外傷や関節疾患等の 傷害を学修する。 | 3 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 |
| 31 | 0 | 外科学概論 I | 外科領域の疾患(総論)を学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 |
| 32 | 0 | 外科学概論Ⅱ | 外科領域の疾患(救急法)を学修する。 | 3 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 |
| 33 | 0 | リハビリテー ション概論 | リハビリテーションについての概念や歴 史、その対象及び評価・診断・治療法を学 修する。 | | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 |
| 34 | 0 | 柔道整復術の 適応 | 柔道整復師の業務範囲であるかを適切に判断し、柔道整復術を適切に実施できる能力 を身に付けることを目的とする。 | 1 前 | 30 | 2 | 0 | | 0 | | 0 |
| 35 | 0 | 柔道Ⅰ | 柔道の精神を学び、柔道を通じその技術と 能力を養う。 | 1 後 | 30 | 1 | | 0 | 0 | 0 | |
| 36 | 0 | 柔道Ⅱ-1 | 柔道の精神を学び、柔道を通じその技術と 能力を養う。 | 2 前 | 30 | 1 | | 0 | 0 | 0 | |
| 37 | 0 | 柔道Ⅱ-2 | 柔道の精神を学び、柔道を通じその技術と 能力を養う。 | 2 後 | 30 | 1 | | 0 | 0 | 0 | |
| 38 | 0 | 柔道Ⅲ | 柔道の精神を学び、柔道を通じその技術と 能力を養う。 | 3 前 | 30 | 1 | | 0 | 0 | 0 | |
| 39 | 0 | 職業倫理 | 柔道整復を業として行うための職業倫理を 学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 |
| 40 | 0 | 関係法規 | 柔道整復師として必要な、業務に関する医療・福祉の法律を学修する。 | 3 前 | 30 | 2 | 0 | | 0 | 0 | |
| 41 | 0 | 臨 床 コ ミ ュ ニュケーショ ン論 | 患者や医療従事者とコミュニケーションを とるために必要なこと学修する。 | 3 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | 0 | |
| 42 | 0 | 社会保障制度 | 医療費等の社会保障制度を学修する。 | 3 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 |

| | | | | | | | | | | | |
|----|---|----------------|--|-------------|----|---|---|--|---|---|------|
| 43 | 0 | 基礎柔道整復 学 I | 骨折の発生機序、症状、合併症、治療法等 を学修する。 | i 1 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 44 | 0 | 基礎柔道整復 学 Ⅱ | 脱臼や軟部組織損傷の発生機序、症状、合 併症、治療法等を学修する。 | · 1 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 45 | 0 | | 上肢(肩関節周辺)の骨折、脱臼、軟部組織損傷を学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 46 | 0 | | 上肢(上腕周辺)の骨折、脱臼、軟部組織 損傷を学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 47 | 0 | 基礎柔道整復 学Ⅲ-3 | 上肢(肘関節周辺)の骨折、脱臼、軟部組織損傷を学修する。 | 2 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 48 | 0 | 基礎柔道整復 学Ⅲ-4 | 上肢(前腕周辺)の骨折、脱臼、軟部組織 損傷を学修する。 | · 2 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 49 | 0 | | 上肢(手関節周辺)の骨折、脱臼、軟部組織損傷を学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 50 | 0 | | 下肢 (大腿周辺、膝関節周辺) の骨折、脱 臼、軟部組織損傷を学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 51 | 0 | | 下肢 (下腿周辺、足部周辺) の骨折、脱 臼、軟部組織損傷を学修する。 | 2 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 52 | 0 | 基礎柔道整復 学V-1 | 体幹(頭部、背部上方)の骨折、脱臼、刺 部組織損傷を学修する。 | 1 1 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 53 | 0 | 基礎柔道整復 学V-2 | 体幹(背部下方、骨盤)の骨折、脱臼、刺 部組織損傷を学修する。 | ž 2 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 54 | 0 | 臨床柔道整復 学 I | 物理療法機器の使用方法を理解し、用いる ことが出来るように学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | | 0 | | |
| 55 | 0 | 臨床柔道整復 学Ⅱ | 医用画像(X線、MRI、CT、超音波画像)に関する理解を深め画像の見方について学修する。 | 2 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 56 | 0 | 臨床柔道整復 学Ⅲ | ストレッチング、マッサージ、マニュフレーション等の初歩的な方法および各種徒手療法を学修する。 | | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |
| 57 | 0 | 臨床柔道整復 学Ⅳ-1 | 競技復帰や積極的なスポーツ活動を目的と したリハビリテーションを学修する。 | 2 前 | 30 | 1 | 0 | | 0 | C | |

| | | | | | | | | | | • | | | | |
|----|---|---|--------------------|---|--------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 58 | 0 | | 臨床柔道整復 学IV-2 | 身体の運動に関して生体の構造や機能を力 学的観点から運動の仕組みを学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | | 0 | |
| 59 | | 0 | 学Ⅴ(スポー | 柔道整復師が頻回に遭遇するスポーツ外傷・障害の特徴・分類・鑑別診断・処置等について学修する。 | | 30 | 1 | 0 | | | 0 | | 0 | |
| 60 | | 0 | | 臨床で実践的に用いる柔道整復施術すなわち整復法、固定法および手技などの技術を 学修する。 | | 30 | 1 | 0 | Δ | | 0 | | 0 | 0 |
| 61 | 0 | | 臨床柔道整復 学Ⅵ | 高齢者能訓練を指導する方法等について学 修する。 | 3 前 | 30 | 1 | 0 | Δ | | 0 | | 0 | 0 |
| 62 | 0 | | 臨床柔道整復 学Ⅷ | 柔道整復師の臨床に必要な診察法を学修す る。 | 3 後 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 63 | 0 | | 臨床柔道整復 学Ⅲ | 運動器の外傷機能訓練法を学修する。 | 3 後 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 64 | 0 | | 総合柔道整復 学 I | 国家試験(柔整理論 総論・上肢)に対応 した授業で、問題演習を柱として総合的に 学修する。 | | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 65 | 0 | | 総合柔道整復 学Ⅱ | 国家試験(柔整理論 下肢・体幹)に対応 した授業で、問題演習を柱として総合的に 学修する。 | | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 66 | 0 | | 総合柔道整復 学Ⅲ | 国家試験(解剖学)に対応した授業で、問題演習を柱として総合的に学修する。 | 3 後 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 67 | 0 | | 総合柔道整復 学IV | 国家試験(生理学)に対応した授業で、問題演習を柱として総合的に学修する。 | 3後 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 68 | 0 | | 総合柔道整復 学V | 国家試験(衛生学、公衆衛生学、外科学概論)に対応した授業で、問題演習を柱として総合的に学修する。 | | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 69 | 0 | | 総合柔道整復 学VI | 国家試験(一般臨床、病理学概論)に対応 した授業で、問題演習を柱として総合的に 学修する。 | | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 70 | 0 | | 総合柔道整復 学VII | 国家試験 (運動学、整形外科、リハビリテーション概論) に対応した授業で、問題演習を柱として総合的に学修する。 | 3 外 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 71 | 0 | | 総合柔道整復 学Ⅷ | 国家試験(必修科目)に対応した授業で、 問題演習を柱として総合的に学修する。 | 3 外 | 30 | 1 | 0 | | | 0 | 0 | | |
| 72 | 0 | | 基礎柔道整復 実技 I - 1 | 基礎包帯法を学修する | 1 前 | 30 | 1 | | 0 | | 0 | 0 | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|------------------------------|--|----------|----|---|------|---|---|---|---|
| 73 | 0 | | 基礎柔道整復 実技 I − 2 | 基礎固定法を学修する。 | 1 前 | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 74 | 0 | | 基礎柔道整復 実技Ⅱ | 徒手筋カテスト、腱反射、知覚検査、カルテ記録法等について学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 75 | 0 | | 基礎柔道整復 実技Ⅲ-1 | 上肢(肩関節周辺、上腕周辺)の骨折、脱 臼、軟部組織損傷の整復法・固定法を学修 する。 | | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 76 | 0 | | 基礎柔道整復 実技Ⅲ-2 | 上肢(肘関節周辺、前腕部周辺)の骨折、 脱臼、軟部組織損傷の整復法・固定法を学 修する。 | 2 前 | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 77 | 0 | | | 下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の整復 法・固定法を学修する。 | 1 後 | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 78 | 0 | | | 体幹の骨折、脱臼、軟部組織損傷の整復 法・固定法を学修する。 | · 2 前 | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 79 | 0 | | 臨床柔道整復 実技 I | ストレッチング、マッサージ、マニュブ レーション等の初歩的な方法および各種徒 手療法を学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 80 | 0 | | 臨床柔道整復 実技Ⅱ | 競技復帰や積極的なスポーツ活動を目的と したリハビリテーション法を学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | 0 | | 0 | 0 |
| 81 | 0 | | | 応急救急法・テーピング(テーピング・キ ネシオテープ法)を学修する。 | 2 後 | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 82 | | 0 | 臨床柔道整復 実 技 Ⅳ (ス ポーツ外傷) | 柔道整復師が頻回に遭遇するスポーツ外 傷・障害の鑑別診断・処置法を学修する。 | 3 後 | 30 | 1 | 0 | 0 | | 0 | |
| 83 | | 0 | 臨床柔道整復 実技Ⅳ(開業 支援) | 臨床で実践的に用いる柔道整復術を学修する。 | 3 前 | 30 | 1 | 0 | 0 | | 0 | 0 |
| 84 | 0 | | 臨床柔道整復 実技Ⅴ | 高齢者と競技者の生理学的特徴に応じた予 防法、プログラム法を学修する。 | 3 前 | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 85 | 0 | | 臨床柔道整復 実技Ⅵ | リハビリテーション科で勤務される場合を 想定して器具の使い方や、機能回復訓練法 を学修する。 | | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |
| 86 | 0 | | 臨床柔道整復 実技Ⅷ | 高齢者能訓練を指導する方法等を学修す る。 | 3 後 | 30 | 1 | 0 | 0 | | 0 | 0 |
| 87 | 0 | | 伝承柔道整復 実技 | 伝承されてきた柔道整復術を学修する。 | 3 後 | 30 | 1 | 0 | 0 | 0 | | |

| 88 ○ 総合柔道整復 実技 I 上肢・下肢・体幹の骨折・脱臼・軟部組織 遺法について学修する。 3 30 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----|-----------------------|--|---|------------------|---------------------------------|--------|----|---|------|---|---|---|---|---|---|
| 89 ○ 「総合来通知報」提供について、診断の仕方・整復法・固定 後 30 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ | 88 | 0 | | | | 損傷について、診断の仕方・整復法・固定 | ıσ | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | | |
| 90 ○ 臨床実習 I 護保険施設での見修を通じて柔道整復師に 分 45 1 ○ | 89 | 0 | | | | 損傷について、診断の仕方・整復法・固定 | IJ | 30 | 1 | 0 | | 0 | | 0 | | |
| 91 0 | 90 | 0 | | | 臨床実習 I | 護保険施設での見修を通じて柔道整復師に | | 45 | 1 | | 0 | | 0 | | 0 | 0 |
| 93 〇 臨床実習IV スポーツ現場での臨床実習実習を実施する。 3 45 1 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 | 91 | 0 | | | 臨床実習Ⅱ | 接骨院での臨床実習を実施する。 | 2 外 | 45 | 1 | | 0 | | 0 | | 0 | 0 |
| 93 〇 臨床美音IV る。 外 40 1 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ | 92 | 0 | | | 臨床実習Ⅲ | スキー場救護所での臨床実習を実施する。 | 2 外 | 45 | 1 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | |
| 95 〇 インターンシップ実習Ⅱ スポーツジムでの実習を実施する。 2 40 1 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 | 93 | 0 | | | 臨床実習Ⅳ | | | 45 | 1 | | 0 | | 0 | 0 | | |
| 96 〇 インターン実費中心で施術所を開業されている院での 2 外 40 1 〇 〇 〇 〇 〇 ○ 97 〇 インターン対実習IV 社会人・プロスポーツでのトレーナー実習 3 外 40 1 〇 〇 〇 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ | 94 | | | 0 | インターン シップ実習 I | 附属接骨院実習を実施する。 | 1 外 | 40 | 1 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | |
| 97 | 95 | | | 0 | インターン シップ実習Ⅱ | スポーツジムでの実習を実施する。 | 2 外 | 40 | 1 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | |
| | 96 | | | 0 | インターン シップ実習Ⅲ | 実費中心で施術所を開業されている院での 実習を実施する。 | 2 外 | 40 | 1 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 91 科目 100 単位(単位時間) | 97 | | | 0 | インターン シップ実習Ⅳ | 社会人・プロスポーツでのトレーナー実習 を実施する。 | 3 外 | 40 | 1 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | |
| | | 合計 91 科目 100 単位(単位時間) | | | | | | 1) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | | | | |
|--|-----------|------|--|--|--|
| 卒業要件: 卒業までに開設している全科目について、「可」以上(60点以上)の | 1 学年の学期区分 | 2 期 | | | |
| 履修方法: 大学設置基準に基づき単位制をとっている。当該学期に開設している | 1 学期の授業期間 | 15 週 | | | |

(留意事項)

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

¹ 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。